

平成 21年 2月

大谷英之 学位論文審査要旨

主 査 池 口 正 英
副主査 入 澤 淑 人
同 村 脇 義 和

主論文

Functional polymorphisms in the promoter regions of matrix metalloproteinase-2, -3, -7, -9 and TNF-alpha genes, and the risk of colorectal neoplasm in Japanese
(日本人におけるマトリックスメタロプロテインナーゼ-2、-3、-7、-9およびTNF- α の機能的遺伝子多型と大腸腫瘍性病変のリスク)

(著者：大谷英之、前田直人、村脇義和)

平成21年 Yonago Acta medica 52巻 47頁～56頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は、日本人の大腸腫瘍性疾患において、MMP-2 -1306 C/T、MMP-3 -1171 5A/6A、MMP-7 -181 A/G、MMP-9 -1562 C/T、TNF- α -308 G/Aの遺伝子多型と疾患感受性および腫瘍進展性について検討したものである。その結果、遺伝子多型と疾患感受性に関しては、腺腫群、癌腫群はコントロール群と比べていずれの多型頻度にも差はみられなかった。一方、腫瘍進展性に関して、腺腫群と癌腫群とで比較すると、MMP-3の5Aアレルのオッズ比が2.74 (95%CI=1.11-6.74 ; P=0.02) と癌腫群で有意に高値を示した。本論文の内容は、大腸における腺腫から癌腫への腫瘍進展性にMMP-3の5Aアレルの関与を明らかにしたもので、大腸腺腫患者管理の面で、明らかに学術水準を高めたものと認める。